

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		臨床実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員		河上修・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・澤卓実・林了大		実務経験と その関連資格			
《授業科目における学習内容》							
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要な技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。							
《成績評価の方法と基準》							
出席評価:80％ レポート評価:20％							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編第7版および柔道整復学・実技編第2版							
《授業外における学習方法》							
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。							
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる		柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-4				
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる		柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-5				
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる		柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-6				
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる		柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-7				
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者の状況の的確な把握・鑑別ができる		柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。	
		各コマにおける授業予定	患者の状況の的確な把握・鑑別-8				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療機関等との連携理解でき実践できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	医療機関等との連携-1		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療機関等との連携理解でき実践できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	医療機関等との連携-2		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	医療機関等との連携が理解でき実践できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	医療機関等との連携-3		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-1		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-2		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-3		
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-4		
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術が実施できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-5		
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者への指導を理解し実践できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	患者への指導-1		
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標	患者への指導を理解し実践できる	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	患者への指導-2		

2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科		柔道整復スポーツ学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	実習
科 目 名		臨床実習Ⅱ		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	45 (1) 時間(単位)
対 象 学 年		2年生		学期及び曜時限	前期	教室名	第2校舎附属治療所
担 当 教 員		河上修・川村智広・仲村剛・ 岩村一成・澤卓実・林了大	実務経験と その関連資格				
《授業科目における学習内容》							
1年生からの継続目標となるが、卒業後の臨床に必要な技術と知識を身に付けることを最終目標とする。 内容は附属施術所での実習を中心に患者さんへの問診から視診・触診・検査から施術方法を身に付ける。							
《成績評価の方法と基準》							
出席評価:80％ レポート評価:20％							
《使用教材(教科書)及び参考図書》							
柔道整復学・理論編第7版および柔道整復学・実技編第2版							
《授業外における学習方法》							
シラバスを確認し、事前に内容の予習をすることが望ましい。 範囲・内容が広く多岐にわたるため、内容の詳細を担当教員に質問にくるように。							
《履修に当たっての留意点》							
臨床実習は実際の患者さんを想定して、卒業後の臨床現場で必要となる知識を付けることを目標としています。実習時間内 では不明な点があれば、時間外でも質問を受け付けます。自分で臨床現場に立つことを想定して実習に臨んでいただき、不 明な点や自分に足りない知識をぜひ見つけて質問して下さい。							
授業の 方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 16 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する		柔道整復学・理 論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行 う。	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-6				
第 17 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する		柔道整復学・理 論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行 う。	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-7				
第 18 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する		柔道整復学・理 論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行 う。	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-8				
第 19 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する		柔道整復学・理 論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行 う。	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-9				
第 20 回	実 習 形 式	授業を 通じての 到達目標	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術を理解する		柔道整復学・理 論編第6版および 柔道整復学・実 技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行 う。	
		各コマに おける 授業予定	柔道整復術の適用の判断及び的確な施術-10				

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第21回	実習形式	授業を通じての到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	KYT:危険予知トレーニング-1		
第22回	実習形式	授業を通じての到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	KYT:危険予知トレーニング-2		
第23回	実習形式	授業を通じての到達目標	KYTシートを用いて危険予知を理解する	柔道整復学・理論編第6版および 柔道整復学・実技編第2版	実習中に学んだことを、 整理しリフレクションを行う。
		各コマにおける授業予定	KYT:危険予知トレーニング-3		
第24回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第25回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第26回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第27回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第28回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第29回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第30回		授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			